

高岡教区教務所 電話 0766-22-0887 FAX0766-21-5152

メール info@takaoka-hongwanji.jp

◇門徒推進員研修協議会開催

去る二月十七日（土）西本願寺高岡会館において門徒推進員研修協議会が開催され、門徒推進員二十五名が参加し、学びを深めた。

今回の研修テーマは、組・所属組織実践運動研修会の共通テーマである『求められる寺院像』とは？（僧侶・門徒としてどう生きるのか）

はじめに講師の一人である教区同朋委員の島高志さん（新湊組門徒推進員）からの問題提起があり、これからの寺院を考えるということは、教えに基づいた寺院のあり方を考えるべきで、寺院経営のために社会に迎合していかうとする姿勢は、差別や戦争に加担したかつての過ちを繰り返すこととなると指摘。本来の寺院の役割とは、人々の様々な苦悩や問題に向き合い、受け止めていくこと、そしてそれは僧侶と門信徒との人間関係の中で築き上げられていくものではないかと提起された。

分散会の報告では、門徒と寺院の関係が急速に崩壊しているという意見が多数を占め、四〇〇五〇代ぐらいの世代になると自分の所属寺がどこか知らない人も多く、また、葬儀や法要を勤めても、それをきっかけに所属寺と関係を持つことは考えず、その場その場で葬儀や法要に僧侶が必要になった時だけ来てもらうということがスタンダードになりつつあることが指摘された。また、法座以外に教えに触れる場が少なく、教えを発信する場としての寺院機能も弱体化していることがより問題を悪化させているとの声も聞かれた。

講師の山名一徳さん（教区同朋委員・伏木組龍善寺住職）からの助言では、今日の危機的状況に至った要因として、寺檀関係の崩壊を挙げ「残念ながら寺院と門信徒は必ずしも信仰だけで結びついていたわけではありません。江戸時代になると幕府によって宗教統制のために寺檀制度が作ら

れ、全ての人間が家ごとに所属寺を定められました」「同時に寺院には門信徒を監視し、統制する権限が与えられ、法座にお参りをしなかったり、年忌法要を勤めなかったりする者は邪宗門（当時取り締まられていたキリスト教など）の疑いありとして取り締まりの対象とされました」

「このように寺院・僧侶と門信徒との間には一種の強制力が働いてきました。幕府崩壊後、寺檀制度は制度としては無くなりましたが、明治以降も家を中心とした社会構造が変わることが無かったため、地域社会のシステムとして強力に保持されてきました」「しかし、近年の社会構造の変化により、家を中心とした地域社会のあり方や人々の意識も変わったことよって寺檀制度が機能しなくなることが、現在の『寺離れ』を引き起こしています」「制度や地域社会の中での圧力が失われた途端に寺院が急激な崩壊を始めたということは、私たちの教団は、教えで結びつく寺院・僧侶と門信徒という関係ではなかったことの証明ではないでしょうか。教えでつながる寺院と門徒という本来の関係を取り戻していくために門徒推進員の皆さんの力が不可欠です」と助言された。

◇連研のための研究会開催

去る二月二十六日（月）、西本願寺高岡会館礼拝堂において各組連研スタッフを対象に「連研のための研究会」が開催され、「連研スタッフに求められること」をテーマに、連研スタッフ三十六名が連研活動について意見交換し、学びを深めた。（詳細は『御同朋の社会をめざす運動のコーナー』にて）

講師の城野至界さん（伏木組主幹・伏木組善證寺衆徒）と山岸智史さん（五位組組長・五位組珉照寺住職）はともに、話し合い法座を進めるのが難しいことの要因は受講者の問題ではなく、連研スタッフ特に僧侶スタッフの

勉強不足、そして何よりものを教える立場で一方的に話すことはできても、門徒と同じ目線で一つの課題に対して共に話し合うことを非常に苦手とする僧侶側の著しいコミュニケーション能力の欠如にあると指摘された。

また、ご法義繁盛と寺院経営の繁盛が混同されて考えられていることが、連研の目的に対する認識のずれを招き、何のための連研かということ曖昧にしてしまっているのでは、と提起された。その上で、「何のための連研なのかを説明できる連研スタッフであってほしい。今まで寺院経営のために寺院・僧侶を権威化してきたことが、僧侶と門徒の間に壁をつくり、今日の状況を招くこととなってしまう。それを乗り越えていこうとするスタッフの努力が必要」と提言された。

◇ブロック別門徒総代研修会が開催

本年度ブロック別門徒総代会が三月五日の第三ブロック（糸岡・砺波・若神・川上組）から始まった。テーマは「宗教儀礼を考える」、弔いに関するあり方を通じて、富山教区立山組満法寺の平野明英住職が講師を務めた。六日の第一ブロック（水波・関野・伏木・五位組）では、初めに平野先生からこれまでの五十年間の葬儀の変化についての問題提起があった。

「地域や社会状況、同じ富山県であっても富山と高岡教区、極端に言えば寺院毎でも違う葬儀の形であるが、昭和三十年代頃は各地域に火葬場があり、地域全体で亡き人を送ってきた。それがサービス業である葬儀社（納棺師）が、地域や親族に代わって葬儀を執り行っていくことで、



地域や親族に頼らない葬儀を行うことができるようになった。現在、家族葬・直葬等様々な形の葬儀に変化した結果、地域や親族の繋がりが希薄化してきた」と述べられた。また、家族や子供達に迷惑をかけたくなると言われるが人間は迷惑をかけないで生きていけるのかと言われ、社会が変わっても変わらないものはあるのではという提起をされた。

その後の話し合いでは五班に分かれて、葬儀（弔う）の変化や僧侶に求めるものは何かをテーマに行われた。各班の意見では、昔ながらの葬儀が良いということや家族葬の方がしつかりと故人との別れができるといった意見、寺院（僧侶）にはもっと門信徒に葬儀の大切さを伝えてほしいとの意見が出された。また、病院で亡くなるのがほとんどの現在では遺体を運ぶためにまず葬儀社に声がかかるが、僧侶は亡くなった際に相談できる人であってほしいとの声も聞かれた。

全体会では各班の発表後、平野先生から、「大小様々な葬儀の善し悪しや大切な人の病や事故での亡くなり方に対して、私たち自身が自分で善し悪しの分別を勝手につけているのではないか」と述べられた。また「死については、今の問題であってすべての死は急なことであり、病气や事故だけで死を迎えていくのだけではなく生まれたからには、私たちは必ず死を迎える」と話された。そして現在の社会状況だけを優先させていく葬儀や門信徒の死に対して祠堂のお願いをするような寺院の護持や経済を優先する葬儀のあり方に対して疑問を投げかけられた。

このブロック総代会は七日に第四ブロック（氷見・氷見東・氷見西組）で行われ、十二日に第二ブロック（新湊・射水組）で行われる予定。



◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー

連研のための研究会報告

さる二月二十六日、「連研のための研究会」が教務所で開催されました。今回は、充実した連研を進めていくためには何よりもスタッフの質が重要だということで、『連研スタッフに求められること』というテーマのもので開催され、私はその意見発表をさせていただきました。

確かに、ここ最近の連研において、今まで仏事や法座に参加したことのない方が受講者の大半を占めていることは事実です。そのため、今までの連研のやり方（特に班別の話し合い法座を指すものと思われる）では上手くいかない、という声も聞かれます。そのために、最初の数回は講義形式の「初心者講座」的な法座を取り入れ、その後に従来の話し合い法座を含めた研修をしている組もあります。それを頭ごなしに否定するつもりはありませんが、一方で「連研が上手く進められないのは『進め方』問題だろうか？その前に自らの立っている位置を確認する必要があるのではないか」という思いから、この度は意見発表させていただきました。

私が所属している五位組では、これまで十一期の連研を開催し、その内の第九期から第十一期を私が主に担当してきました。確かに、最初の頃は研修、特に話し合い法座が上手く進みませんでした。しかし、そこで気づかされたのは、受講者の質の問題ではなく、スタッフ（主に僧侶）の質の問題だということでした。スタッフが教化者意識を丸出しにして、話し合いが単なる質疑応答になったり、上から正論を押し付けるような形で話し合いが停

滞することが度々ありました。問われたのは私たちの「上から目線の教化者意識」でした。

最近よく聞かれます「初心者講座」というものにも、私は「上から目線の教化者意識」というものを感じます。「最近の受講者は法座に参加したことがないから、まずは初心者講座で仏教の基礎知識を学んでいただき、それから話し合い法座に入ろう」というのには、どうしても違和感を覚えます。「それが連研なのか？連研は単なる知識習得の場ではないのでは？」という思いがあります。

確かに、私も以前は同じようなことを思っていました。ですが、そうではなくて、身近な問題（仏事、生老病死、人間関係）や社会の不条理（差別、人権侵害、戦争、ヤスクニ）から出発して、それに自分がどう向き合うのか、それを教えに問いたずねる、という方が、釈尊や親鸞聖人が言いたかったことやその精神が見えてくるということに気づかせていただきました。その為には、仏教教団（真宗教団）が長年抱えてきた課題やテーマをスタッフと受講者が共有し、スタッフも「受講者の立場」で共に学んでいくという姿勢が大切です。

今回の班別話し合いの中で出た意見に、「中央教修がゴールではない」という意見がありました。本当にその通りです。門徒推進員はゴールではありませんし、特別な立場でもありません。もちろん、僧侶も同様で、住職や布教使になることはゴールでもありませんし、特別な存在になることでもありません。共に同じ目線で立って人生の問いを一緒に考えていく場、それが連研だと思いますし、そうしていきたいと思えます。

【五位組組長 山岸智史】

◇これからの日程（3/16～4/26）◇

3月	教区・財団行事	教化団体・組行事
16	財団理事会・評議員会	
19	寺院振興対策委員会・研修会	
20		少年連盟指導者研修会
21		雨晴苑追悼法要
22		寺院女性会委員会 特別法務員・雅楽研修会
23		布教団役員会
25		仏青教区のつどい（西養寺）
26	実践運動教区委員会	
28	教学研究室例会	長寿苑ビハーラ
29		新任保育士研修会
30	定期教区会	
4月		
4		雨晴苑ビハーラ 仏教壮年会監査
9		仏壮総会（ニューオータニ）
12		仏壮大会実行委員会
14	常例法座	中仏通信生のつどい
16		仏婦常任委員会
17		仏壮理事会
18		寺女総会・研修会
19		いろは塾
20		布教団総会
24		仏教婦人会総会
25		長寿苑ビハーラ
26		セミナー

☆お知らせ☆

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱（175袋）8,300円

・1組（10袋）500円

お申込み先は・・・高岡市東上関446 高岡教務所内
（寺族青年会担当）

Tel.(050)5587-7708(代表)

Fax.(0766)21-5152

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送（KNB）・73.8kHz.

◎毎週土曜日（本山制作）午前6:15～6:25

□第2・4日曜日（富山・高岡制作）午前6:00～6:10

◎3/24（土）：南莊 撰氏

（本願寺派布教使・静岡県教覚寺副住職）

「おみのりで繋がったファミリー」

□3/25（日）：未 定

（富山教区）

◎3/31（土）：南莊 撰氏

（本願寺派布教使・静岡県教覚寺副住職）

「ご縁をつくり・つなぎ・深める」

◎4/7（土）：義本 弘導氏

（本願寺派布教使・大阪府浄行寺住職）

「私の弱さと阿弥陀さまのたのもしさ」

□4/8（日）：栗山 宣雄氏

（高岡教区川上組本福寺）

◎4/14（土）：義本 弘導氏

（本願寺派布教使・大阪府浄行寺住職）

「気軽に話せるお坊さん」

◎4/21（土）：義本 弘導氏

（本願寺派布教使・大阪府浄行寺住職）

「聞くところを慶び獲るところを嘆ずる」

【西本願寺高岡会館4月の常例法座】

ご講師：波 多 正 宣 氏

（兵庫教区阪神南組正光寺）

ご講題：『私 と の で あ い 』

午後1時20分頃からビデオ上映、2時からお正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘いあわせてお参りください。